

## はじめに

産業連関表とは、1936年、アメリカの経済学者W. レオンチェフにより発案され、世界各国で作成されている経済統計で、特定の地域・期間における財・サービスの産業間における相互取引状況等を一覧表にしたものです。

この産業連関表は作成地域や調査対象年の経済構造を把握できるだけでなく、将来の経済予測、各種施策の効果測定などを考察でき、その優れた有用性により、様々な分野で活用されています。

本県でも、これまで昭和50年表を皮切りに、概ね5年ごとに、最新の平成27年表まで、合わせて9回の産業連関表を作成してまいりました。

近年の不透明な経済状況に併せ、厳しい県財政の中、各施策の事業評価の一環として県内経済波及効果を分析し、事業の費用対効果を算出して効率の良い事業を行うための目安にするなど、この産業連関表を活用できる場は多くあると考えられます。

しかしながら、複雑かつ膨大なデータを用いて作成され、かつ数学的手法を用いてまとめられた産業連関表を用いて分析を行うには、かなり難解な側面もあるようです。

そこで令和2年3月に公表されました、「平成27年鹿児島県産業連関表」を少しでも多くの方に理解し、活用していただくために、産業連関表の概要からモデル事例の分析まで、わかりやすく解説した本書を刊行しました。

本書を産業連関表の概要を知る入門書として、また、県政諸施策の基礎資料、各種施策の立案などに幅広く活用していただければ幸いに存じます。

おわりに、本書の刊行に当たって、貴重な資料を提供していただきました関係機関並びに、御指導、御助言を賜りました関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和 2年 7月

鹿児島県企画部統計課長 増田 裕幸